

30P1-am006

講義カードを利用した薬学教育における双方向的技法の試み(その2)

○田口 忠緒¹, 三輪 一智¹, 金田 典雄¹(¹名城大薬)

【目的】学生にとって満足度の高い薬学教育を行うためには、毎回の講義に関する不満な点、疑問に感じた点を、教員が把握しながらリアルタイムで対策を講じることが重要であると考え、講義カードの導入による双方向教育を試みている。昨年度の本学会では、同学年の2科目における本法の教育効果について報告したが、今回は、2学年間における本法の効果の差異について検討した。

【方法】1) 2年次担当講義(放射薬品化学:後期, 15時間)および3年次担当講義(臨床検査医学:後期, 15時間)について、受講時の感想や質問事項などを、各自が作成したB6版のカードに記入させ、次回講義までに所定のポストに投函させた。2) カード内容は次回講義までにまとめ、講義の冒頭で解説した。3) カード提出は任意とし、提出者は積極点として総合評価に加点した。4) 講義終盤で学生による授業評価アンケートを行い、本法および各講義の満足度を評価させた。5) 講義の理解度を定期試験の評点で表し、本法の効果調べた。

【結果・考察】講義カードの提出率は2年次3~55%, 3年次6~32%であった。本方式に対するアンケートでは、「教員との意志のやりとりに役立ったか」について両学年とも70%以上が、また、「講義内容を理解する上で役立ったか」については両学年とも85%近くが肯定的な回答を示した。講義の理解度(試験成績)は両学年とも類似した分布を示したが、3年次においては、一人あたりのカード提出頻度が高いほど試験成績が良い傾向が見られた。また、「授業は総合的に見て満足であったか」については、両年次とも90%近くが肯定的であったことから、本法は、学年を問わず学生の学習意欲を高揚させるために有用な技法であると思われた。